

IV-88

街区公園の愛護会活動に関するアンケート分析

大同工業大学 学生員 児玉 陽子

大同工業大学 正会員 舟渡 悦夫

大同工業大学 正会員 嶋田 嘉昭

1. 研究の背景と目的

本研究は、都市公園の中で、最も身近で地域住民の交流の場でもある街区公園における公園愛護会活動に着目して研究を行うものであり、著者らが平成9年に行った住民調査の結果では、『街区公園を必要な場であると思うか』という質問に対し、街区公園清掃に係わったことのある住民の83%が、「必要な場である」と意識しており、清掃を通じて街区公園に係わるることにより、街区公園に対する必要意識も高くなることが分かった。

そこで本研究は、全国の各自治体と名古屋市内の街区公園愛護会に対しそれぞれアンケートを実施し、公園愛護活動に対する互いの評価について調査し、その結果を報告するものである。

2. 調査方法

1) 調査の種類

平成10年12月に、主要都市の公園緑地担当部局と、名古屋市内の公園愛護会に対して郵送にてアンケートを行った。対象団体は次の通りである。

① 自治体調査（G）：調査対象都市の選定条件は、日本公園緑地協会正会員である政令指定都市12市、東海4県の62市町、東京21区、他県庁所在市33市の計128市町とし、回答数は117市町（91%）であった。

② 公園愛護会調査（K）：街区公園面積が1ha未満の名古屋市内の公園愛護会388団体（トイレ有の162団体、無の226団体）の会長に対し調査し、回答数は199団体（51%）（トイレ有が93団体（88%）、無が106団体（47%））であった。

2) 調査内容

調査内容は、各自治体、公園愛護会ともに「公園愛護会の活動内容」に重点を置いて質問を行った。特に、公園愛護団体に対する自治体の援助内容についても、それぞれ詳しく質問した。主な質

表-1 アンケートの主な質問内容

No.	G	K	本研究で使用する質問内容
1	○		公園愛護団体がないときの問題の有無
2	○		公園愛護団体がないときの問題の内容
3	○	○	公園愛護団体の活動内容と、重点の置き方
4		○	愛護会活動が会員に与える効果
5	○	○	公園愛護団体に対する援助の内容・金額
6		○	愛護会の1年間の清掃活動の金銭評価額

G：自治体 K：公園愛護会

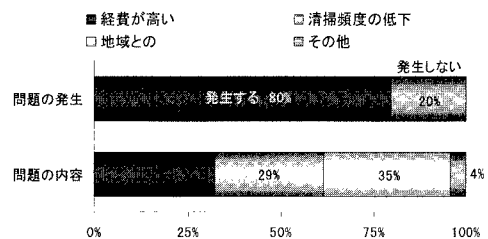


図-1 公園愛護団体が存在しない時の問題点 (G)

■ 特に置く □ 置く □ 普通 □ 置かない ■ 特に置かない

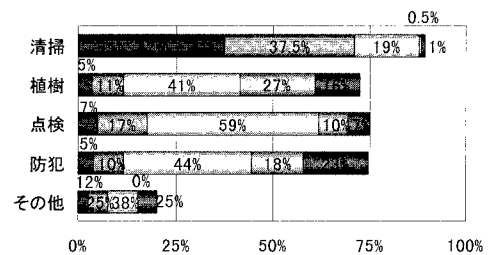


図-2 愛護会活動の内容と重点の置き方 (K)

問内容は表-1に示す通りである。

3. 調査の結果

1) 愛護団体が存在しない時の問題点 (G)

図-1より、『公園愛護団体が存在しないとき、街区公園の維持管理に何らかの問題が発生するか否か』という問いに対し、約80%の自治体はその存在の有無に関わらず「発生する」と考えている。また、問題点の内容に関しては、「経費」や「清掃頻度」などに対する危機感も高いが、「地域との密着性」が低下することに対する危機感が35%と高いことが分かる。

キーワード：街区公園・公園愛護会・自治体・アンケート

連絡先：〒457-8790 名古屋市南区白水町40 Tel：052-612-5571 Fax：052-612-5953

2) 街区公園における活動内容 (K)

図-2より、『公園愛護会の公園における活動内容』をみると、「清掃」が89%、「公園設備の点検」、「公園内の防犯」がそれぞれ75%、「植樹の手入れ」が73%という順に活動頻度が高い。また、各活動に対する重点の置き方は、清掃以外はどれも「普通に」が最も多いことから、愛護会活動の重点は「清掃」であることがわかった。

3) 愛護会活動が会員に与える効果 (K)

図-3より、『公園愛護活動が会員に与える効果』の内容は、「地域の連帯」が63%、「地域の親睦」が60%と高く、次に「社会奉仕」が59%となった。この結果から、公園愛護会活動は個人的ボランティアとして行っているだけでなく、地域コミュニケーションのひとつとして評価されている。

4) 愛護会活動の金銭評価 (K)

図-5は、『自治体からの実際の年間援助金額』と『愛護会の1年間の清掃活動をあえて金額に代えたとすると、いくらぐらいに相当すると思うか』という質問に対する金銭評価額の頻度図と、両者の散布図を示したものである。

- ① 自治体からの年間援助金額：頻度図から、3~4万円(平均：36,500円)の金額が一番多い。これは、36,000円が名古屋市の公園愛護会に対する基本金額であるためである。また、最高額でも年間102,000円と、援助金額にはさほど大きな差がないことが分かる。
- ② 愛護会活動に対する金銭評価額：自治体からの年間援助額が36,000円に集中しているのに対し、金銭評価額は「金額に換算できない」とする回答から「100万円」以上と、その評価額は大きく変動している(109千円以上を除いた平均は43,400円、標準偏差は27,500円)。金銭評価額の頻度図に示す「0」の内容は、「?」が7団体、「不明」「分からない」が5団体、「ボランティアなので考えたことがない」が2団体という結果から、愛護会活動は金銭換算になじまない活動との意見もあることが分かる。
- ③ 散布図から、「自治体からの援助額」と「金銭評価額」の相関性を見ると、②で述べたように年間援助額36,000円の間だけでも評価額に大きな変動があり、相関性はみられない(相関係

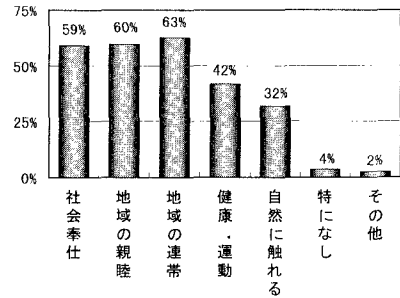


図-3 愛護会活動で会員が感じる効果(K)

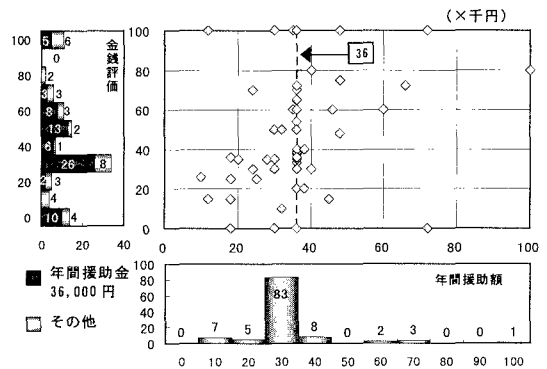


図-4 愛護会活動に対する年間援助額と金銭評価額(K)

数：0.18)。どちらの回答も36,000円という団体は全体(109団体)の13%あり、自治体からの援助金額が今回の評価額に対する一定の基準となったことが考えられる。

なお、図中では金銭評価額が109,000円以上の36サンプルは表示していない(この場合の平均：142,300円、標準偏差：346,800円、相関係数：0.16)。

4. まとめ

以上をまとめると、次のようである。

- ① 公園愛護会において、住民と行政の共働的關係が見られる。
- ② 公園の清掃を行うことにより、地域住民のコミュニティ意識が高まる。
- ③ 公園愛護会活動は、単なる清掃活動や個人的活動ではなく金銭に換算することのできないボランティア活動と考えられている。

【参考文献】

- 1) 児玉陽子・舟渡悦夫：距離とゾーンからみた街区公園の利用特性、土木学会年次学術講演会講演概要集第4部、53回、pp. 226-227, 1998
- 2) 児玉陽子・丸山保昭・嶋田嘉昭・舟渡悦夫：住民と行政が一体となった街区公園の維持管理のあり方について、土木学会中部支部研究発表会講演概要集、平成10年度、pp. 433-434, 1999